〈調査報告〉

長崎・興福寺唐人墓碑群の新発見区域に関する報告

姜　楠[*1]

Report on the Discovery of a New Section of the Chinese Cemetery at Kōfukuji Temple in Nagasaki

JIANG Nan

Summary

Kōfukuji, a temple of the Ōbaku Zen Sect in Nagasaki, Japan, contains a Chinese Cemetery with gravestones dating from 1757 to 1887. Past research indicated the presence of 111 gravestones commemorating the deaths of 128 people, almost all seamen involved in the Japanese-Chinese trade. Previous maps grouped these 111 gravestones in eight sections designated by the letters A to H. The author discovered five new gravestones in the cemetery and added a new section "I" to the map. This is a report on the discovery of the previously unknown gravestones, the information on the deceased gleaned from the gravestone inscriptions, and the significance of the discovery for further studies on the Chinese Cemetery at Kōfukuji.

Keywords：（Nagasaki, Kōfukuji , Chinese cemetery）

1. 緒言

興福寺後山に広がる墓地には、江戸時代に長崎へ渡ってきた中国人が多数葬られている。これらは貴重な歴史的遺産だが、言語や習慣の違い、また戦争の歴史などにより、同墓地に関する研究は進んでおらず、現地調査も行われてこなかった。しかし、数百年の間、興福寺の日本人住職や檀家が墓碑を撤去せずに大切に守ってきたことや、同時代に同様式の墓地は中国本土にはほとんど現存していないことを考えると、同墓地に関する研究は郷土史に光を当てるばかりでなく、今後の日中間交流に新たな可能性を示すと思われる。筆者は興福寺後山の唐人墓碑群に関する基礎研究の一環として、現存する116基の墓碑を撮影し、既存地図の訂正、墓碑の計測と碑文の詳細に関する調査を実施した。以下はその作業の報告である。

2. 調査する前の唐人墓碑群

調査する前、興福寺後山の唐人墓地は樹木や竹が密生し、雑草灌木が茂っていたので、踏み込むことさえ困難であった。既存の記録によると、同墓碑群は墓碑数 111 基、埋葬者人数 128 人であった。すべて、男性である。同墓地は、整理及び地図作製のために「A」から「H」という 8 つの区域に分けられていた。海上遭難船員 18 名全員の名前を刻んだ墓碑（A3 号）がある。碑文に見る埋葬者の没年は宝暦 7 年（1757）から明治 20 年（1887）の範囲。埋葬者のほとんどは、一般船員と思われる。

[*1] 大学院　総合システム工学専攻　博士課程 3 年

2015 年 3 月 30 日受付
2015 年 4 月　9 日受理

図１調査を実施する前の興福寺唐人墓碑群（筆者撮影）

3. 新発見の墓碑

筆者が唐人墓地の中で今まで知られてこなかった墓碑を発見し、長崎史談会会員の協力を得て、除草と清掃を行った。新発見の墓碑は 5 基、人数は 5 人である。すべて男性である。従来の「A」から「H」という 8 つの区域に加えて、「I」という新しい区域を設定した。興福寺の過去帳である『霊鑑録』と照合してみると、新しい区域の埋葬者全員の名前が登載されていた。5 人の内の 4 人は一般船員であるが、朱毛館（I5）の碑文には「周宅工人」という文字が刻まれている。周宅工人とは周氏という富豪の家で家事手伝いをする人と思われる。浙江省の人は 3 人、江蘇省の人は 1 である。もう一人は出身地が記入されていない。

図２　新発見の墓碑（筆者撮影）

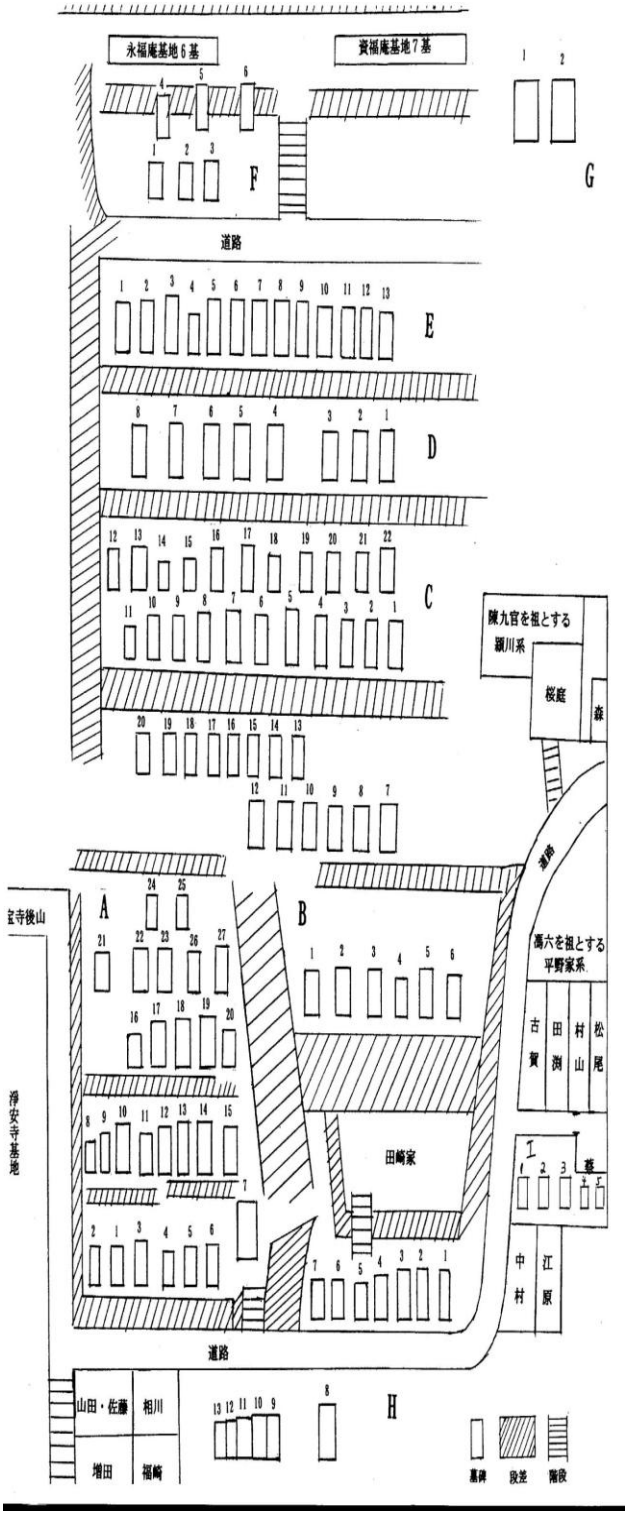

図 3　興福寺唐人墓碑群の地図。新発見の区域「I」は右に示す。（筆者作成）

4. 調査結果

新しく発見された 5 基の墓碑（I1～I5）の碑文および碑文の分析を下記に示す。

浙江嘉興府平湖縣人 皇清待贈先君府永林陶公之墓 嘉慶拾年拾壹月日　孝男　大昌　百拜奉祀 文	I1 姓名は陶永林。出身地は浙江嘉興府平湖縣。嘉慶拾年拾壹月日、即ち 1805 年に 11 月に死亡した。『靈鑑録』上 47 丁表に「丑八番」と書いてある。丑八番船は「皆吉」という南京船である。船頭は張秋琴、脇船頭・財副は潘用祉である。1805 年 6 月 4 日に中国浙江嘉興府平湖縣乍浦鎮から出航し、6 月 17 日長崎港に入港した。船員は総勢 90 名である。息子・二人である陶大昌、陶文昌がこの墓碑を立てた。
道光十七年二月念九日卒 清故龔錦文公の墓 申三番船　奉仕小保　百拜	I2 姓名は龔錦文。道光十七年二月念九日、即ち 1837 年に 2 月 29 日に死亡した。『靈鑑録』下 3 丁表に「鄞縣」、「五十五歲」と書いてあるので、出身地は浙江省寧波府鄞縣。墓の主は 1783 年に生まれた。申三番船は日新艙という南京船である。船頭は沈耘穀である。1836 年 11 月 17 日に浙江省嘉興府平湖縣乍浦から出航し、11 月 28 日に入港した。船員は総勢 101 名である。翌年 1837 年 4 月に帰帆した。墓の主は乗っている船が帰帆する前に死亡したので、永遠に長崎に葬られた。息子・小保によって祭られた。墓の主は C10 張良才と同じ船で一緒に長崎に来た。また二人も同郷である。
道光十七年二月念三日卒 清故先考迁玉華公之墓 申四番船　孝男華　得明　得麟　仝奉祀	I3 姓名は華迁玉。道光十七年二月念三日、即ち 1837 年に 2 月 23 日に死亡した。『靈鑑録』下 4 丁表に「蘇州府」、「五十五歲」と書いてあるので、出身地は蘇州府である。墓の主は 1783 年に生まれた。申四番船は宝泰という寧波船である。船頭は周藹亭、牌主は沈福齡である。1835 年 11 月 20 日浙江省嘉興府平湖縣乍浦から出航し、11 月 28 日に入港した。船員は総勢 101 名である。翌年 1837 年 4 月後に帰帆した。墓の主は乗っている船が帰帆する前に死亡した。息子二人・華得明と華得麟によって祭られた。
同治五年寅十月廿四日辰時終 清故亡友王春山の墓 衆友仝祀立	I4 姓名は王春山。出身地は記入されていなかった。同治五年寅十月廿四日辰時、即ち 1866 年に 10 月 24 日に死亡した。衆友がこの墓碑を立てた。『靈鑑録』下 15 丁表に記録が残っている。
嘉慶丁巳年生　浙江乍浦鎮人 皇清待贈先考朱公毛館神墓 同治乙丑年終　孝子毛大奉祀	I5 姓名は朱毛館。出身地は浙江嘉興府平湖縣乍浦鎮。嘉慶丁巳年生、即ち 1797 年に生まれた。同治乙丑年終、即ち 1865 年に死亡した。享年 69 歲。息子である毛大がこの墓碑を立てた。『靈鑑録』下 11 丁表には「周宅工人」書いてある。身分から見て、墓の主は船員ではない。周氏という富豪の家で家事手伝いをする人と思われる。

5. まとめ

新しく発見された 5 基の墓碑（I1～I5）の情報は下記のようにまとめる。

区域	埋葬者	出身地	生卒年	年齢	奉仕者	船	備考
I1	陶永林	浙江省嘉興府平湖縣	～ 1805 年 11 月		子	丑八番	
I2	龔錦文	浙江省寧波府鄞縣	1783 年～ 1837 年 2 月 29 日	55	子	申三番	
I3	華迁玉	江蘇省蘇州府	1783 年～ 1837 年 2 月 29 日	55	孝男	申四番	
I4	王春山	不明	～ 1866 年 10 月 24 日		衆友		
I5	朱毛館	浙江省嘉興府平湖縣乍浦鎮	1797 年～ 1865 年	69	孝子		周宅工人

長崎興福寺後山に広がる唐人墓地全体と同様、新しく発見された区域の埋葬者は南京を中心とした揚子江の下流の南京地方の出身者で、浙江省、江蘇省の人は多数を占めている。5 基を加えると、埋葬者人数は総勢 133 人、墓碑は 116 基である。大部分の人たちは一般船員である。一方、船頭、かつての政府役人、随使、画家、工人などいる。

現存する「霊鑑録」は上部と下部に分けられた、1707 年から 1927 年まで、200 数十年の間に亡くなった墓の主の記録である。名前がある記録は 404 人だが、重複に記録された埋葬者が 5 人。家族が遺体を持って帰国した埋葬者は 34 人。従って、墓碑がすでに確認された 133 人以外に、名前があり同墓地に埋葬されたと思われるのに墓碑が見つかっていない人は 232 人に上る。これらの墓碑は今後見つかる可能性があると思われる。「山頭」に埋葬されたという記述が「霊鑑録」に見られるし、倒れて土の中に埋まって見つけにくい墓碑もあるかも知れない。今後さらなる研究および発掘調査が必要である。

参考文献

(1) 長崎華僑研究会編著、宮田安、『興福寺の唐人墓地』『長崎華僑史・稿（史・資料編）・年報第三輯』　長崎市立博物館　1987 年

(2) 長崎県教育委員会著　『中国文化と長崎県』　1989 年 3 月

(3) 中村　質　『日本来航唐船一覧』明和元～文久元（1764～1861）年　長崎県立長崎図書館蔵　1997 年 3 月

(4) 丹山、雷振　仝誌　『霊鑑録』　未刊墨書